

## 26) 病理診断科臨床研修プログラム

研修医氏名

指導医氏名

### I. 一般目標

病理診断（生検組織診断、細胞診断、剖検診断、迅速診断）について理解するために研修する。  
上記を遂行するために、

1. 病理診断の依頼内容を理解し、検査の目的を理解する。
2. 標本作製の方法を理解する。
3. 診断のために必要な染色、検索方法の選択、判断ができる。
4. 標本の顕微鏡観察を行い、組織所見の理解、診断ができる。
5. 病理診断にかかわる臨床検査技師、細胞検査士、臨床医などとの協力ができる。

### II. 経験目標

#### A. 経験すべき診察法・検査・手技

##### II-A-(3) 基本的な臨床検査

★明朝体：経験が必要とされる項目

		研修医評価				指導医評価			
★	1) 細胞診・病理組織検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる	A	B	C	D	A	B	C	D

##### II-A-(6) 医療記録

チーム医療や法規との関連で重要な医療記録を適切に作成し、管理するために、

		研修医評価				指導医評価			
★	1) CPC(臨床病理検討会) で症例呈示でき、レポートを作成できる。	A	B	C	D	A	B	C	D

※必須項目：

- 1) CPCレポートの作成、症例呈示
- 2)
- 3)
- 4)
- 5)
- 6)

上記を自ら行った経験があること（CPCレポートとは、剖検報告のこと）

##### II-D-その他

###### (1) 組織診断について

		研修医評価				指導医評価			
☆	1) 検体の適正な取り扱いができる。（ホルマリン固定、電顕用材料の固定、凍結固定・保存など）	A	B	C	D	A	B	C	D
☆	2) 検体の肉眼的所見を観察・記録して、適切な切り出しができる。	A	B	C	D	A	B	C	D
☆	3) HE染色標本を観察し報告書が作成できる。	A	B	C	D	A	B	C	D
☆	4) 必要な追加検討の選択（切り出し、特殊染色など）ができる。	A	B	C	D	A	B	C	D

###### (2) 細胞診断について

		研修医評価				指導医評価			
☆	1) 検体の適切な取り扱い、固定・染色方法を理解する。	A	B	C	D	A	B	C	D
☆	2) 標本を観察し、報告書が作成できる。	A	B	C	D	A	B	C	D
☆	3) 細胞検査士と情報の共有、意見交換を行う。	A	B	C	D	A	B	C	D

###### (3) 病理解剖診断について

		研修医評価				指導医評価			
☆	1) 患者の死亡から病理解剖に至るまでの手順を理解する。	A	B	C	D	A	B	C	D
☆	2) 病理解剖の手順、正常臓器の形態を理解する。	A	B	C	D	A	B	C	D
☆	3) 病理解剖の手技、臓器取り出し、保存ができる。	A	B	C	D	A	B	C	D
☆	4) 組織標本を観察し、剖検診断、考察することができる。	A	B	C	D	A	B	C	D

## (4) 迅速診断

		研修医評価				指導医評価			
☆	1) 取り扱い、手技について理解する。	A	B	C	D	A	B	C	D
☆	2) 報告書を作成できる。	A	B	C	D	A	B	C	D

評価方法：A. B. C. Dの4段階とするが、オーダー入力画面では下記（ ）で示されている ・能力を問う項目 A (◎)：確実にできる、自信がある                      B (○)：だいたいできる、たぶんできる C (△)：あまり自信がない、ひとりでは不安である                      D (×)：できない ・経験を問う項目 A (H)：11例以上      B (L)：6～10例      C (M)：1～5例      D (N)：0例
---

☆ゴシック体：当該科で経験が必要とされる項目
------------------------

ゴシック体：Ⅱ-D-その他は当該科で経験が必要とされる項目
-------------------------------

## 1) . 研修指導体制

1. 研修責任者1名を置く。
2. 標本作製に関しては臨床検査技師が担当する。
3. 切り出しなどの業務に関しては病理診断科医師が担当する。
4. 病理診断の実際に関しては病理診断科部長が責任を持つ。

## 2) . 研修方略

1. 毎日行われる切り出しに参加し、標本の切り出しの仕方、肉眼所見の観察及び記録方法（写真撮影、切り出し図の書き方）を学ぶ。
2. 生検、手術、剖検材料から標本作製（包埋、薄切、染色）を体験する。
3. 細胞診標本の作製とスクリーニングを体験する。
4. 特殊染色、免疫染色を体験する。
5. 指導医の監督のもと、病理所見の記載、病理診断を行う。
6. 各科との臨床病理検討会に参加する。
7. 術中迅速標本の作製と診断を体験する。
8. 病理解剖に参加し、CPCのための準備、発表を行う。

## 3) . 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
	病理診断（生検組織、細胞、剖検診断、術中迅速診断）を行う				
午前	手術検体の切り出し	手術検体の切り出し 外科手術検体の切り出しに立ち会う	手術検体の切り出し	手術検体の切り出し	早期勉強会に出席する（1-2回/月） 手術検体の切り出し
午後		病診連携検討会に参加する（1回/月） 神経内科CPCに参加する（3回/月）	皮膚科・腎臓内科との病理検討会に参加する（隔週） 呼吸器科との病理検討会に参加する（1回/月） 院内CPCに参加する（1回/2カ月）		

※乳腺・病理検討会に参加する。（不定期）

※病理診断の対象（標本）については、研修医と相談して決める。

※剖検がある場合は参加する。

4) . 研修評価項目

1. 研修終了後に自己評価と指導医評価を規定に従い、入力する。
2. 共通Aの評価表を規定に従い入力する。

研修全般に対する総合評価		研修医評価				指導医評価			
1)	仕事の処理	A	B	C	D	A	B	C	D
2)	報告・連絡	A	B	C	D	A	B	C	D
3)	患者への接し方	A	B	C	D	A	B	C	D
4)	規律	A	B	C	D	A	B	C	D
5)	協調性	A	B	C	D	A	B	C	D
6)	責任感	A	B	C	D	A	B	C	D
7)	誠実性	A	B	C	D	A	B	C	D
8)	明朗性	A	B	C	D	A	B	C	D
9)	積極性	A	B	C	D	A	B	C	D
10)	理解・判断	A	B	C	D	A	B	C	D
11)	知識・技能	A	B	C	D	A	B	C	D





